正規分布 $N(m,\sigma)$ において

平均
$$m$$
 (1)

分散
$$\sigma$$
 (2)

確率密度関数
$$\frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}}\exp\left(-\frac{(x-m)^2}{2\sigma^2}\right)$$
 (3)

母集団は正規分布 $N(\mu,2)$ である。母平均 μ 、母分散 2 標本として 50 個取り出す。取り出した個体の平均は 10 である。信頼係数 0.95 における μ の信頼区間を算出

(1). 取り出した 50 個の標本 $X_i (i=1,\ldots,50)$ に対し、次のように標本平均 $\overline{X_{50}}$ を定め、分散 $V(\overline{X_{50}})$ を求める。

$$\overline{X_{50}} = \frac{1}{50} \sum_{i=1}^{50} X_i$$

 $X_i(i=1,\ldots,50)$ が独立同分布 (平均 μ 、分散 2) であれば正規分布でなくても $V(\overline{X_{50}})=\frac{2}{50}$ である。

$$V(\overline{X_{50}}) = V\left(\frac{1}{50} \sum_{i=1}^{50} X_i\right) \tag{4}$$

$$=\frac{1}{50^2}\sum_{i=1}^{50}V(X_i)\tag{5}$$

$$= \frac{1}{50^2} \sum_{i=1}^{50} 2 \qquad V(X_i) = 2 \ (i = 1, \dots, 50) \tag{6}$$

$$=\frac{2}{50}\tag{7}$$

 $\overline{X_{50}}$ の平均 $E(\overline{X_{50}})$ は、 $E(\overline{X_{50}})=\mu$ である。 平均と分散を利用し確率変数 $\overline{X_{50}}$ を正規化すると $\frac{\overline{X_{50}}-\mu}{\sqrt{V(\overline{X_{50}})}}$ であり、こ の正規化した確率変数の平均、分散、密度関数は

確率密度関数
$$\frac{1}{\sqrt{2\pi}}e^{-\frac{x^2}{2}} \tag{10}$$

(2).

$$\int_{-1.96}^{1.96} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x^2}{2}} dx = 0.95$$

この式は正規分布 (平均 0、分散 1) の空間で -1.96 から 1.96 に含まれる部分が全体の 95% であることを意味している。

標準正規分布 N(0,1) において確率変数 S についての確率は

$$P(-1.96 \le S \le 1.96) = 0.95$$

となる。これは 95% の確率で確率変数 S が区間 [-1.96, 1.96] に含まれることを意味している。

 $rac{\overline{X_{50}}-\mu}{\sqrt{V(\overline{X_{50}})}}$ は N(0,1) に従うので、これが区間 [-1.96,1.96] に含まれる確率が 95% である。

そこで、式の変形を行う。

$$-1.96 \le \frac{\overline{X_{50}} - \mu}{\sqrt{V(\overline{X_{50}})}} \le 1.96 \tag{11}$$

$$\overline{X_{50}} - 1.96\sqrt{V(\overline{X_{50}})} \le \mu \le \overline{X_{50}} + 1.96\sqrt{V(\overline{X_{50}})}$$
 (12)

 $V(\overline{X_{50}})=rac{2}{50}$ は先ほど求めたとおり $rac{2}{50}$ であり、標本平均 $\overline{X_{50}}$ の代わりにサンプルとして得た平均値 10 を当てはめる。

$$10 - 1.96\sqrt{\frac{2}{50}} \le \mu \le 10 + 1.96\sqrt{\frac{2}{50}} \tag{13}$$

$$9.608 \le \mu \le 10.392 \tag{14}$$

求める区間は $9.608 \le \mu \le 10.392$ 。